

カイコに学ぶ

秋山 幸也

※相模原市立博物館学芸員



その9

カイコを知ろう

⑥ 品種のはなし



1 500年以上もあるカイコの歴史

カイコは人間が飼い始めて5000年以上たつと言われています。そのあいだ、人間は1年も休まずにカイコを育ててきたことになります。カイコの先祖の蛾がなにかということはまだくわしくわかっていません。ただし、今いる野生の蛾の中で一番カイコに近いと言われているのは、クワコという蛾です。クワコとカイコの違いや同じところは、また改めてお話ししましょう。

クワコの成虫



2 いろいろな品種^{ひんしゅ}

同じ種でも、いろいろな特徴を持っているグループに分けられます。これを、品種と言います。お米の品種には「コシヒカリ」や「あきたこまち」、「キヌヒカリ」などがあります。イチゴには「とちおとめ」や「あまおう」など、食品売り場ではおなじみの分け方です。

カイコの場合は、繭^{まゆ}の形や色、カイコの体の模様、そしてとれる糸の性質などによってたくさんの品種があります。日本で昔から育てられてきた品種の多くは「くびれ繭」と言ってピーナッツ型をした繭をつくるのが特徴です。日本で繭形といえば、こうしたくびれた形を指します。中国大陸のカイコの品種はくびれがなく、俵（たわら）形です。どちらの品種にも黄色い繭をつくるものと白い繭をつくるものがあります。ちなみに、クワコの繭は薄い黄色です。

私たちが今育てているカイコの多くは、日本や中国でもともと育てられてきた品種の中から、良い性質を持つ品種どうしを掛け合わせたものです。こうすることで、両方の品種のよいところを合わせもった性質のカイコができるのです。



くひれ繭
(たわら形) (ピーチッツ形)

繭の形と品種



(うずい黄色)

白い繭と黄色い繭

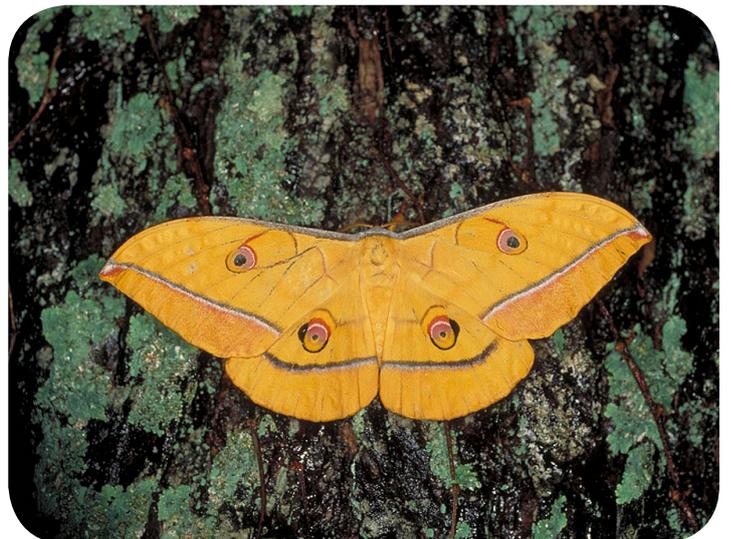
3 かさん てんさん 家蚕と天蚕

カイコのことを、室内で育てるカイコという意味で家蚕と呼ぶことがあります。これは、カイコと同じように糸をとるために、野外で飼育する天蚕(野蚕)と区別するためです。

ただし、天蚕は、カイコに近い野生の蛾のクワコとはちがいます。ヤママユガというまったく別の種類の昆虫です。食べる植物も、カイコのようにクワではなく、クヌギなどの葉を食べます。

天蚕の幼虫はカイコよりもずっと大きくて太く、カイコのように家の中で育てることができません。一つの繭からとれる繊維もずっと少ないのですが、独特の輝きのある繊維がとれるので、この糸で織られた布はとても高級です。

天蚕(ヤママユガ)の幼虫



ヤママユガの成虫